

江戸

農文協の全集

その庶民生活をたずね、未来の糧とする

農書といえば最古（江戸初期）といわれる『清良記』、宮崎安貞『農業全書』、大蔵永常『広益国産考』などが著名な古典とされる。むろん「日本農書全集」全72巻にはそれらも収められているが、この全集（朝日新聞社「明日への環境賞」受賞）では約300に及ぶ文書が15の部門に分けられて整然と並んでいる。そして最大の特長は現代語訳と原文とが対照的に上下二段組みされていることである。江戸時代の農村を訪ね、農民と話すことのできる希有な全集である。以下に15部門を略記し、明日への糧となる文書を紹介する。

「安藤昌益全集」全23冊・増補篇3巻は、「毎日出版文化賞」で「出版界の金字塔」とされた影印・書下し文・現代語訳がセットされた唯一の昌益全集である。増補篇はとくに医学に係わる資料を集め、さらに全集を全文テキスト化し立体的検索ができるCD-ROM 3枚を収めた。

「江戸時代 人づくり風土記」は江戸時代を歴史の過程としてでなく、三百年近く続いた平和の時代の庶民生活を現在の都道府県別に描いた、壮大な郷土物語の集大成である。

1 地域農書（第1～41巻）

全都道府県に存在し、今耕作法を子孫に伝える主目も新発見されている地域密着的の内に、往時の暮らしの着の農書群。その地の田畑 全容が浮かび上がる。

耕作術 第1巻

成立地・青森 成立年・1776（安永5）年
中村喜時著 4900円

稲作の手引きと暮らしの考え方が一体となった江戸時代農家の心性をこよなく伝える地域農書の白眉。本書に始まる収録農書約300点の詳細は別巻「収録農書一覧／分類索引」に掲載。



2 農事日誌（第42～44巻）

農事日誌は日ごとの農「生活百科」の如く読める。耕、四季の移り変わり、村 一方で、記録者の農耕観、づきあい、家族の動静を記 処世観、生命観も伺えて興して、あたかも近世庶民の趣尽きない。

3 特産（第45～49巻）

工農業事見聞録 第48・49巻

成立地・石川 成立年・1818～43（文政）天保年間
村松標左衛門著 揃12900円

金沢藩・村松標左衛門が たる特産を図入りで記す大関西・関東を踏査した全国 著。特産百科。衣食住全般にわ

4 農産加工（第50～52巻）

製油・砂糖・葛、塩・味噌から自家用までの加工手増・醤油、あるいは漬物 引書の集成。・豆腐・麴・酒などの、商

童蒙酒造記 第51巻

成立地・兵庫 成立年・1687（貞享4）年
著者不詳 5000円

酒造法は多分に秘伝とさ など各種の配の製法を詳述した中で、生・発酵・糖化 した希有な文書。

5 園芸（第54～55巻）

江戸染井の植木職人の手になる園芸百科「花壇地錦抄」、切り花と鉢物の「剪花翁伝」、今に続く肥後菊仕立ての秘伝「養菊指南車」他、園芸愛好家必携の名著群。江戸園芸人の技法の確かさ細さが横溢する。



6 林業（第56～57巻）

森林業を地域経済活性化「林政八書」（沖繩）などの柱とした「山林雑記」や 山林撫育に係わる書も多森林の保護育成の実際を「風水」の思想で説明した

7 漁業（第58～59巻）

多摩川に鮎が溢れていた 偲ばれる。「釣客伝」では時代。江戸城御用達を背景 釣師が江戸湾での釣技を披とした地域漁業が生まれ 露する。冬の諏訪湖のわかつた。『玉川鮎御用中日記』 さき漁の記録は類書なし。は江戸城への運搬の労苦も

8 畜産・獣医（第60巻）

解馬新書 第60巻

成立地・東京 成立年・1852（嘉永5）年
菊地東水著 7000円

本書は書名通り馬の解剖 牛への応用書、愛玩動物飼学。詳細極める解剖図が江 育法も収録。戸時代にあった。鍼灸の役

9 農法普及（第61～62巻）

農業往来 第62巻

成立地・大分 成立年・1762（宝暦12）年
江藤弥七著 7000円

全国各地で発見される往来物は寺子屋で使われた初級教科書といえる。農家の子弟は何を学んだか？ 老農（先進農家）の農法普及のためのパンフレット類も多々収録した。

10 農村振興（第63巻）

二宮尊徳仕法の真髓を伝 割控（暦日に割当てた農える「暮方取直日掛縄素手 作業年間予定書さ）、村の段帳、大原幽学の「仕事 議定書類も収録。

11 開発と保全（第64～65巻）

江戸時代に展開された河 また各地の新田開発の経緯川土木・石塔工法の技術書と維持管理、さらに焼畑の今に残る水道橋「通潤橋」 技法も（第65巻）の設計書も収録（第65巻）。

12 災害と復興（第66～67巻）

全国各地の噴火・地震・津波（第66巻）、水害・冷 害・虫害の発生・被害・救援・復興（第67巻）の記録。

富士山焼出し砂石降り之事 第66巻

成立地・神奈川 成立年・1716～35（享保年間）著者不詳 6500円

噴火による降灰、酒匂川 防工事など被害地側の一連の氾濫、復興費の訴願、堤 の記録。

13 本草・救荒（第68巻）

備荒草木図 第68巻

成立地・岩手 成立年・1833（天保4）年
建部清庵著 6500円

一関藩医の著書が著わし 収録の庶民版で100余た「民間備荒録」（第19巻）の草木の図入り。

14 学者の農書（第69～70巻）

大蔵永常 農稼肥培論 第69巻

成立年・1832（天保3）年頃

佐藤信淵 培養秘録 第69巻

成立年・1840（天保11）年 6500円

地域資源を利用し尽くす 学の知識を取り入れ、信淵自然農法を大成した二大 は鉱物性肥料を重視した。農学者の肥料論。永常は蘭

15 絵農書（第71～72巻）

絵巻・屏風・浮世絵・絵 しの世界。『老農夜話』（第馬・彫刻・焼物・衣服など、72巻）は種子準備から食卓多様な素材に繰り広げられ までの20場面の絵巻。る江戸期農村の労働と暮らし

明治農書全集 全13巻

（編集）古島敏雄、川田信一郎、熊沢喜久雄、須々田黎吉 A5判、上製、箱入●揃価70000円

江戸から明治へ、農法 実際の著作を集大成しは断絶しているわけでは ない。泰西農学の導入が計られる中、また大農論・小農論の行き交う中で、老農と呼ばれる先進農家の残した農書は多く、両者の混合の姿を見ることができ。米麦、特用作物、野菜、果樹、畜産、養蚕、土壌肥料、農具、耕地整理、病害虫、林業などに分けて学者、民間



農文協

未来に活かす伝統の力

別巻 収録農書一覧 分類索引



三百余の農書を現代に活かすガイド 国土保全、自然農法、地域教育など「現代的課題を解くキーワード」からの農書案内と、成立地、分野別などの農書一覧。農法・農作業、衣食住、年中行事・信仰など26項目25万件の分類索引。 ●24000円

- ⑫ 『農業全書』 宮崎安貞・貝原素軒 ●揃105000円
- ⑭ 『広益国産考』 大蔵永常 ●52000円
- ⑯ 『百姓伝記』 著者不詳 ●揃87000円
- ⑰ 『会津農書』 佐瀬与次右衛門 ●55000円

（編集委員）山田龍雄・飯沼二郎・守田志郎・岡光夫／佐藤常雄・徳永光俊・江藤彰彦 A5判（26・71・72巻はB5判）・上製・箱入 ●各42000円／75000円、セット価411000円

【収録農書15の分類テーマ】地域農書、農事日誌、特産、農産加工、園芸、林業、漁業、畜産・獣医、農法普及、農村振興・開発と保全、災害と復興・本草・救荒・学者の農書、絵農書（代表的収録農書）



地域資源を活用した 持続的・循環型社会の原像

農業生産を中心とした江戸期庶民の生活世界全般を記した農書。24年もの歳月にわたり全国から300余点を翻刻、現代語訳。「環境を汚さない当時の農法を紹介して、現代の暮らしに大きな示唆を与え」た、として、朝日新聞社・第3回「明日への環境賞」受賞。

日本農書全集

安藤昌益全集

全21巻・22分冊・別巻1 安藤昌益研究会編、A5判、上製、箱入り
●増補篇 全3巻、A5判、上製、箱入、各巻CD-ROM付
●各15000円、増補45000円



「学」という字の成り立ちから学問の階級性をあばき出す。(「私制字書巻」)

昌益の現存する全著作と関連資料を復刻編と現代語訳編で集大成した、毎日出版文化賞受賞、物集索引賞受賞作品。増補篇に検索容易なCD-ROM3枚を同函。
第一〜七巻 稿本自然真営道へ書下し文と現代語訳を二段組で掲載
第八〜二巻 統道真伝(同右)
第三巻 刊本自然真営道(同右)
第一四〜一六巻(上下) 資料編(二井田資料、八戸同函)。

江戸時代 人づくり風土記

全50巻 都道府県別編集、B5判、上製、平均380頁
●各3500円〜10000円、増補225000円



若者と子供が担う鳥取県伯耆三ノ宮倭文神社の祭礼。祭は重要な社会教育の場でもある。

都道府県別に一巻を当て、様々な角度から光を当て、江戸時代の庶民生活に歴史書としてでなく、江戸時代の暮らしの雰囲気がかかるものという編集方針で、各巻おおむね次の五章で構成した類をみない全集。各巻は七、八編の読み切り物語となっている。
第1章 自治と助け合いの中で
人物を中心に新田や水利の開発、特産品の振興、生産と生活の共同組織(ゆい)、災害復興などの多彩な事例を紹介。
第2章 生業の継承と振興の中で
農耕・山仕事・漁撈の姿、こけし・細工物・彫刻などの工芸品、その他あらゆる生業をめぐる伝承を集める。
第3章 地域社会の教育システムの中で
小学生から読める文章とし、郷土の江戸時代を子ども時代から理解して、昔に生かすよすがとするねらいが受け入れられて、中学校学校図書館に採用されているが、教育系の大学での授業実習にも活用されている。

昌益の人体・府蔵図(「統道真伝」人倫巻)



増補 村の遊び日

自治の源流を探る

古川貞雄著

近代の「国定の休日」とは違う休日が近世の村々にはあった。そこに自治の源流を探る。332頁
●1800円

旅芸人のフオークロア

門付芸「春駒」に日本文化の体系を読みとる

川元祥一著

門付芸「春駒」のルーツを探り、漂泊民が担った芸の本質を読み解く民俗誌。240頁
●1800円

日本農法の水脈

徳永光俊著

「作りまわし」と「作りならし」に日本農法の真髄を見、近世日本の「生きもの観」を探り出す。264頁
●1840円

日本農法の天道

現代農業と江戸期の農書

徳永光俊著

江戸時代農書を現代に生かす道を、現代農村を歩くなかで考え、さらに東アジア農業に目を向ける。258頁
●1850円

日本農法史研究

畑と田の再結合のために

徳永光俊著

畑と田の結合を目指した大和農法の軌跡に、農民の田での涙、畑での汗を感じとる創造の本。334頁
●6300円

近世稲作技術史

嵐嘉一著

豊富なデータで近代稲作技術が著者独自の立地生態的方法で解析した名著。5250円

近世北陸農業史

加賀藩農書の研究

清水隆久著

加賀藩下の農政機構の特質と藩下の小農経営の成立、農法の展開を解明した力作。536頁
●6090円

江戸時代にみる日本型環境保全の源流

農文協編

元禄以降の江戸期と低成長期の現代を重ね合わせて明らかにする多彩な環境観と保全術。284頁
●1700円

巨大都市江戸が和食をつくった

渡辺善次郎著

日本一豊かだった江戸前の海と近郊農業の発展を支えられた江戸・東京の食事成史。280頁
●1370円

江戸時代 人づくり風土記

全50巻・各都道府県別編集



地方が中央から独立し、侵略や自然破壊なく地域社会を充実させ、来るべき循環型社会、成熟社会のモデルとして世界的に注目される江戸時代。その魅力を、各都道府県ごと、行政、自治、産業、教育、学芸、福祉、民俗など多彩な分野、約50編の物語で描く。●全50巻・都道府県別編集、B5判、上製、平均380頁、各巻に物産一覧、カラー口絵つき

- 〈江戸〉に学び未来を拓く五つの視点
各都道府県版の章立て
- | | | | | |
|-------------|--------------|-----------------|--------------|-------------------|
| 第1章 自治と助け合い | 第2章 生業の振興と継承 | 第3章 地域社会の教育システム | 第4章 子育てと家庭経営 | 第5章 地域おこしに尽くした先駆者 |
|-------------|--------------|-----------------|--------------|-------------------|

個性的で活力溢れる
各地の生活文化と産業づくり



【特別編集版】
東京編「大江戸万華鏡」
CD「大江戸四季の音巡り」付
外国人も驚いた世界最大のエロ
ジリ都市。政治、経済から教育、
風俗まで。●1000000円
沖縄編
CD「沖縄を聴こう(沖縄民謡)」
付 東アジアをつなぐ海の架け
橋。日本の源流ともなる独自の文
化。●700000円
大阪編「大阪の歴史力」
「天下の台所」の活力がリードし
た自給列島・日本の産業革命。●
1000000円

農文協

近世日本の地域づくり
2000のテーマ
索引巻
開発、物産、祭り、教育
など多彩なテーマで本全
集の記事をガイド
●50000円